

基盤 目指すまちづくりの実現に向けた行政運営の方向性

1 人事・給与制度改革

職員の意欲と能力を向上させ、組織として最大の力を発揮していくための人事・給与の仕組みを構築します。

これにより、市民から信頼を得られる職員、組織を目指します。

- ・ 職責と処遇が一致する給与体系を構築します。
- ・ 公平感・納得感のある評価制度を導入します。

2 DXの推進

デジタル時代における利用者中心の行政サービスの構築を推進し、暮らしやすさの向上を図ります。

また、全ての分野でDX※の取り組みを進めることで、今の時代に合った仕事の進め方をすることにより業務効率化と市民サービス向上を図っていきます。

※ ICTが社会に浸透することで、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる概念。AIやIoTの普及により、人々の消費行動や企業活動などがより快適になるという考え方。デジタル・トランスフォーメーションの略語

○重要業績評価指標（KPI）

項 目	現状値	目標値 (2025年度)
越波や河川増水等に備えたカメラ設置数 過去に水害に被災した地点等に設置する災害監視カメラの設置数	—	30基 (累計)
BPRに着手した所属数 実践ワークショップ研修を受講し、BPRに着手した所属の数	2 件	10件 (累計)

(参考) DXの推進事業

①スマートシティの実現に向けた取り組みの推進【新規】

民間事業者との連携を積極的に推進し、健康づくりや防災、交通などの分野にデジタル技術を活用することで、一人ひとりの生活様式に応じた暮らしの質の向上につなげます。また、デジタル社会に対応できる人材を育てていきます。

②防災DXの推進【新規】

越波や河川増水等に備え、必要個所に災害監視カメラを設置し、市民や職員がリアルタイムに状況を確認できるシステムを導入します。これにより、迅速な避難につなげ、市民の生命、財産を守ります。

③デジタル技術を活用した市民の利便性向上と業務の効率化【拡充】

スマートフォンなど様々なツールにより、利用者が欲しい情報をいつでも容易に入手でき、必要な手続きが行える環境を整備することで、生活利便性の向上を図ります。

また、デジタル技術を活用することで業務の効率化を図り、無駄のない業務執行を推進します。

④介護認定訪問調査の効率化【拡充】

介護認定のための訪問調査にモバイルシステムを導入し、1件あたりにかかる調査時間の短縮などの効率化を図り、今後さらに増加する介護認定申請に対応していきます。また、同時に申請から認定までの期間が短縮できます。

⑤図書館の利便性向上【新規】

市立図書館に利用者が自ら本の貸出・返却ができる機器を導入し、手続きにかかる時間を短縮することで、利便性の向上を図ります。

3 国、県、民間事業者などとの連携

地域課題や市民ニーズは、ますます多様化・複雑化しています。これに対応するため、これまで以上に民官連携による取り組みを進めていきます。

民間事業者の経営マインドを取り込むことで、既存の制度や枠組みにとらわれることなく解決策を導けるよう、職員の意識改革につなげます。

また、民間事業者のアイデアやノウハウを活用させていただき、効率的で効果的な、より質の高い市民サービスを提供します。

(参考) 国、県、民間事業者などとの連携事業

①ICTを活用した新たな教育施設への支援【拡充】

民間事業者が運営する次世代型の教育施設が令和4年（2022年）4月にオープンします。タブレットを活用し ICT スキル向上を図る学童保育サービスのほか、現役世代のテレワークや e スポーツ教室、シニア向けのパソコン教室などでも利用できる複合施設となる予定です。市は施設運営費用の一部を助成します。

②GIGAスクールのさらなる推進【拡充】

学校教育における1人1台端末の効果的な活用や学習カリキュラムの構築等を支援するため、ICT 支援員を配置します。

また、国の施策や民間事業者と連携して、ICT 教育の積極的な導入を検討し、個別最適化された学びを実現します。

③テレワーク環境の整備【拡充】

テレワークのニーズは今後も高まると予測されるため、民間のテレワーク拠点やサテライトオフィスの整備を促していきます。

また、横須賀の自然・歴史などの豊富な地域資源を生かし、民間企業と連携してソレイユの丘にワーケーションの環境を整えるなど、多様な働き方ができるまちとして、関係人口の増加を図ります。

④スマートシティの実現に向けた取り組みの推進【新規】

民間事業者との連携を積極的に推進し、健康づくりや防災、交通、教育などの分野にデジタル技術を活用することで、一人ひとりの生活様式に応じた暮らしの質の向上につなげます。また、デジタル社会に対応できる人材を育てていきます。

⑤新たなチャレンジに対する支援【拡充】

ICT、IoTの導入など、経営改革に取り組む企業や、中小製造業者の新製品・新技術の開発や新分野への進出を支援します。

また、創業・新事業展開に取り組む方を支援するスタートアップオーディションの入賞奨励金を最大100万円から200万円に引き上げます。

さらに、横須賀リサーチパークを中心に、スマートモビリティ（賢い移動運搬手段）を活用した新規ビジネス創出を通じて社会的課題解決を図る、ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジに引き続き取り組みます。

⑥追浜駅周辺のまちづくり【拡充】

国とともに進めている国道16号追浜駅前交通ターミナルの整備や、国が進める国道16号追浜駅前交差点の改良、市道追浜夏島線の拡幅、鷹取川の整備などを行います。

併せて、権利者組織による追浜駅前の市街地再開発の取り組みを支援するとともに、自転車等駐車場の整備や、北図書館の移転を進めます。

これらを進めるうえでは、地域住民や企業、交通事業者をはじめとする、様々な地域主体による「えき・まち・デザインセンター」の設立に向けて取り組み、将来的なエリアマネジメントを見据えた連携体制を構築していきます。

⑦追浜駅前図書館の整備【新規】

北図書館を追浜駅前の再開発ビルに移転し、再開発事業者をはじめとする民間事業者と連携し、地域全体の価値を向上させる図書館を目指して整備を行います（令和9年度（2027年度）オープン予定）。

⑧西地区の活性化【拡充】

県内でも有数の集客施設であるソレイユの丘では、グランピング施設やカフェレストランなど、新たな魅力を生むリニューアルを行い、さらに人を呼び込みます。

これと併せて、美しい海岸線などのロケーションを生かすため土地利用の規制緩和を行った地域に、民間企業等の進出を図っていきます。

⑨ティボディエ邸と周辺の仕掛けづくり【拡充】

ルートミュージアムのはじまりの場所となるヴェルニー公園内のティボディエ邸では、館内の装飾を強化し、当時の雰囲気をもよりリアルに再現するほか、横須賀の歴史を3DCGの大型スクリーンで体感できる新作ムービーを公開します。

また、ウインターイルミネーションや、ティボディエの母国であるフランスにちなんだフェアなど、ヴェルニー公園全体を面として盛り上げる賑わい創出企画をはじめ、公園内に新しくオープンするレストランや、周辺の海での夜間クルーズ、猿島でのイベント開催など、民間事業者とも連携・協力することで、集客の促進を図ります。

近隣のポートマーケットは、飲食・お土産などが揃った観光集客の核として、令和4年（2022年）中にオープンします。

⑩浦賀地区の活性化【拡充】

レンガ造りのドライドックとして世界最大級の希少な施設である浦賀レンガドックは、ルートミュージアムのサテライト施設として位置づけており、新たな観光拠点として活用していきます。

護岸補修など適切な保存を行うとともに、民官による浦賀レンガドックを活用したイベントなどで知名度を高め、近隣の千代ヶ崎砲台跡などと併せて集客を図ります。また、浦賀の渡船について、管理・運航を民営化し、民間事業者が行う様々な取り組みとの相乗効果により、集客力向上を図ります。

隣接する浦賀警察署の跡地を神奈川県から取得し、行政センターに続く狭い道路に歩行者用通路を整備するとともに、その活用を検討していきます。こうした取り組みにより地域全体を活性化し、民間投資を呼び込んでいきます。

⑪美術館の集客力の向上【拡充】

多くの方がアートに触れ、美術館に親しんでいただく機会を増やすため、著名な民間美術館との連携による知名度の高い作品の展示や、市内にある運慶仏像をはじめとした国指定重要文化財を含む仏像の展示など、新たな分野にもチャレンジし、より魅力的な展覧会を展開します。

また、野村萬斎氏らによる能楽の上演やデジタルアート展の実施など、新たな美術館としてチャレンジングで先進的な取り組みを進めます。

児童生徒造形作品展など、地域に根差した取り組みも、これまでと同様に進めます。

⑫ダンスによるにぎわいづくり【拡充】

ヒップホップダンスなどのストリートダンス大会を誘致して、まち全体を盛り上げます。

また、屋外ダンス練習場所を整備し、街なかで誰もがダンスを楽しめる環境をつくるほか、夢に向かって努力する若い才能を応援するため、高校生ダンス大会の東日本大会の誘致や、市内中高生の活動を応援していきます。

⑬うみかぜ公園周辺のにぎわいづくり【拡充】

うみかぜ公園では、民間企業と連携した新たなエンターテインメントの仕掛けづくりを進め、隣接する、よこすか海岸通りのイベントやアート、リニューアルと併せてにぎわいを創出します。

⑭海上自衛隊「国際観艦式」との連携【新規】

海上自衛隊創立 70 周年を記念した国際観艦式にあわせて、音楽イベントの開催を検討します。

⑮プロスポーツチームとの連携【拡充】

(横浜DeNAベイスターズとの連携)

現役選手やチアリーダーが小学校や幼稚園などを訪れ、野球を通して子どもたちとふれあう機会を設けたり、その他様々な取り組みを行っていきます。

また、DOCK OF BAYSTARS YOKOSUKA などで行われる秋季トレーニング時には、市内の子どもたちを対象としたイベントなどを実施し、トップアスリートを身近に感じることでできる環境づくりを推進するとともに、地域のにぎわいを創出します。

(横浜F・マリノスとの連携)

令和4年度(2022年度)の練習場オープンに向けて、小学校等での訪問サッカー教室などを通じて、選手やコーチとふれあい、スポーツの楽しさを子どもたちに伝える活動を展開します。

さらに、久里浜の街なかをマリノスのチームカラーであるトリコロールで装飾するほか、パブリックビューイング観戦を実施するなど、市民や地元商店街、事業者などと協力しながら様々な取り組みを行い、スポーツを核としたまちづくりを進めていきます。

⑩アーバンスポーツ、eスポーツによるにぎわいづくり【拡充】

BMX フリースタイルジャパンカップの誘致や、e スポーツでは市内高校の部活動支援や大会の誘致などに取り組み、若者に人気のあるアーバンスポーツ、e スポーツの力を生かしたまちづくりを進めます。

⑪市役所の脱炭素化の推進【新規】

横須賀市の公共施設への太陽光発電システム設置を進め、公用車を順次 EV に切り替えていきます。

また、横須賀ごみ処理施設（エコミル）でごみ焼却時に発電した電気は施設内で自家消費後、余剰分を売却していましたが、エネルギーの地産地消に向けて、他の公共施設へ供給するなど、公共施設の温室効果ガス排出量の削減を図ります。

併せて、環境に配慮した企業へのインセンティブの仕組みづくりや、環境配慮製品の導入などの検討、他の自治体や民間企業と連携した取り組みも行っています。

⑫市域全体の脱炭素化の支援【拡充】

太陽光発電システムや蓄電池の設備購入、窓の断熱改修などを行った場合、市内商業施設で利用できるポイントや商品券を助成します。

また、EV では、車両や充電器の購入費の一部を助成するほか、民間事業者と連携した EV カーシェアリングサービスを新たに開始します。（市役所裏に2台配置予定）

併せて、国や県などを含む、役立つ情報を一元的に分かりやすくお伝えしていきます。



▲⑪充電中のEV

⑱海に囲まれた立地の活用【拡充】

ブルーカーボンとは、藻類などの生物が吸収する二酸化炭素のことで、その吸収量は陸上の植物に匹敵すると言われています。研究機関や市内企業等と連携して、藻類を増やすことで、二酸化炭素の吸収量を増やしていきます。こうした取り組みは、水質の改善や磯焼け対策など、自然環境の保全・再生にもつながります。

⑳循環型社会の推進【拡充】

ごみの減量化・資源化、適正処理や環境美化を図るため、ごみトークや子どもごみ教室などを行うほか、長年、市民と横須賀市が一体となって環境美化活動に取り組んでいるクリーンよこすか市民の会の 50 周年記念事業などで意識啓発を図ります。

また、豊かな海を守るために、海洋プラスチックごみ対策アクション宣言に基づき、横須賀市や事業者間などで連携した取り組みを行い、輪を広げ、機運を高めていきます。

さらに、家庭での生ごみ減量化のため、生ごみ処理機の普及を促進します。特に、電気を使わず土の中に住む微生物の力等で生ごみを分解する非電動型の生ごみ処理機購入費の補助率を引き上げます。

㉑新たな公園の整備【拡充】

衣笠地域にある大矢部弾庫の跡地は、戦後、自衛隊等の弾薬庫の保管、補給で使用されていた、文化財と自然が残る広大な敷地です。国と取得に向けた協議を進め、整備・活用に向けた調査を開始します。

また、久里浜地域では、横浜 F・マリノス練習場が令和 4 年度（2022 年度）にオープンします。

㉒推進のための体制整備と基盤づくり【拡充】

民官連携の担当セクションを設け、民間事業者からの提案などをワンストップで受け止める体制をつくります。

専用ホームページの開設や、プッシュ型による民間事業者への情報提供など、柔軟で前向きな横須賀市の姿勢を強く発信します。

また、時代の変化や実情に合っていない条例や規制等については、その必要性を検証し、見直しの検討を進めていきます。

○令和 6 年度予算の重点投資

基盤 目指すまちづくりの実現に向けた行政運営の方向性

<主な取り組み>

DX 等の推進

行政事務の効率化とよりよい市民サービスを提供するため市役所の DX をさらにすすめていきます。

令和 6 年度 主な実施内容

業務効率化	市民サービスの向上
生成AIの活用	スマートシティの推進 (ヘルスケアデータの連結・分析)
電子商取引サービスの導入・活用	欠席連絡などのICT化 (小中学校の出欠席等連絡ツールの導入)
総務事務センターの開設	消防同意の電子化
保育所などの運営費請求事務のオンライン化	市役所会計窓口セルフ収納機を導入
郵便物集計業務のクラウド化	国民健康保険料試算システムの導入

国、県、民間事業者などとの連携

地域課題や市民ニーズは、ますます多様化・複雑化しています。これに対応するため、これまで以上に民官連携による取り組みを進めていきます。

また国や県との連携も深め、事業を推進します。

【参考】令和 6 年度の民官連携の取り組み

連携内容	概要
公園の利活用	・三笠公園のリニューアル、大矢部弾庫跡地の整備、長坂緑地の活用検討
遊休地の利活用	・旧田浦月見台住宅（既存建物のリノベーション実施） ・秋谷老人福祉センター（景観を生かした活用・地域活動スペース） ・浦賀駅前周辺地区、うわまち病院跡地、南処理工場跡地 （民間活力による利活用）
脱炭素	・ブルーカーボン（藻場造成事業） ・EV充電器の公共施設等への設置
にぎわいの創出	・オクトーバーフェスト、ウィンターマーケット（ヴェルニー公園） ・ポップサーカス（浦賀レンガドック） ・アート＆フォトスポット（野比海岸）
健康支援	・ヘルスケアデータの分析（重症化予防の分析等） ・小中学生に体力、運動能力、運動習慣等調査を実施
その他	・横須賀火力発電所市民開放エリアの整備（サッカー、テニス場整備予定） ・こども食堂等に食料等の無償提供 ・国有地・県有地の利活用検討